

第 4 回ビジョン懇談会が出された意見及び今後の対応方針

資料 2

No.	分類	発言者	提案意見 (項目)	発言内容	対応方針
1	役割分担	亀井委員	支援機関の役割	○高知市と市町村と県の3者の役割が資料に挙がっているが、実際に事業を実施するとなればこの3者だけでなく産業機関や研究機関などの支援機関がそれぞれ役割を果たすことで非常に効果的なものになると考えるので、是非意識していただきたい。	行政組織以外のプレイヤーの役割が明確になるよう、連携事業案概要シートをリニューアルしました。事業間での連携に様々な場面でご支援を賜ることにより、相乗効果を発揮していけるような取組となるよう、今後も協議を重ねて参ります。
2	役割分担	内川委員	官と民の役割	○官と民の役割が不透明な部分が多いと感じた。金融機関としてバックアップをしていく主役は民ということになると思うので、事業を進めていくうえで役割分担を明確にしたほうがいいと感じた。	
3	役割分担	五百蔵委員	学生の関わり	○34市町村の連携に学生がどのようにその中で学びを深めながら参画できるかというところに関心を持っている。連携の具体的な部分で入っていけるように進んでいけばいいと期待している。	連携事業No. 5日曜市出店事業や連携事業No. 13インバウンド観光推進事業等においては学生の皆様に参画していただけてと考えております。その他の事業でも学生の皆様の学びに有効と考えられる事業がありましたらお声がけをさせていただくとともに、教育機関からも積極的な参画提案をいただけることを強く期待しており、今後も協議を重ねてまいります。
4	役割分担	行宗委員	観光事業者への周知・役割分担	○観光事業者やホテル・旅館の方々、市町村側として観光協会や広域の組織というような方々にこうした取組を認知していただいたうえで、ムーブメントを起こしていかないとけないと思う。誰がどういう役割をしながら進めていくのかということを考えながら共に取り組んでいきたい。	連携事業No. 12広域観光推進事業において、観光客の軌跡情報を分析し、広域観光商品の造成やPRを実施する予定です。その過程において、観光事業者や関連団体と連携しながら効果的な情報発信を行ってまいります。
5	役割分担	亀井委員	商工会の役割	○事業の中にも色々な商工業者がプレイヤーとして参画できるものもあるとお見受けしたので、是非そういった事業について、商工会も参加をしていきたいのでお声がけをお願いしたい。地域の休廃業の状況についても商工会の職員が地域巡回という形で各事業所を回っている。地域の企業情報については一番知っていると思うので承知していただき、商工会の役割を検討していただきたい。	連携事業No. 1統計データ活用事業、連携事業No. 6地場産品販路拡大推進事業、連携事業No. 17空き店舗等情報発信事業などにおいて商工会にも参画していただけてと考えております。また、各事業を効果的に実施するため、商工会を含めた支援団体がお持ちの情報を積極的に活用させていただきたいと考えております。
6	役割分担	内川委員	役割分担と最終的な目指す姿	○最終的に官は官だけで回すもの、最後は民と民で好循環を目指すものというのは非常に大事で、役割分担を最終的にどのように目指していくのかという部分があるのかと思う。KPIの話も出たが、数字だけではなく最終的に目指す姿をどうするのかという議論をしながら具体的な事業の話をしていくというのは非常に大事であるし、コアな部分であると思う。	官と民の役割分担を含め、連携中枢都市圏による取組でどのような圏域の姿を目指し、どのような効果があるのかを関係者に明確に認識していただき、協力体制が構築できるよう、分かりやすい資料作りや説明に取り組んでまいります。
7	観光振興	五百蔵委員	学生の関わり	○インバウンド観光について、高知市から入って行って市町村のこれまで見えてきてない部分を見せていくことで面白さが分かってくると。本国に帰ってまたもう1回来てみようという相乗効果があるのではないかと常々思っている。そこに大学生の教育としてどう関われるかという、外国語のパンフレットや案内、冊子といったものを出版するといったところで専門性を活かせるかと思っている。学生を接着剤のような形として活動ができるのではないか。	連携事業No. 13インバウンド観光事業において設置する予定の観光案内所のスペースを活用して学生の皆様にも参画していただけてと考えており、学生の皆様の学びに有効と考えられる事業がありましたらお声がけをさせていただくとともに、教育機関からも積極的な参画提案をいただけることを強く期待しており、今後も協議を重ねてまいります。
8	観光振興	内川委員	インバウンド観光	○インバウンド事業について1点思うのが、この事業はやって来る外国人観光客への対応だと思うが、どのように外国人観光客を取り込んでくるのかという視点も入れてもらいたい。直接台湾とか香港とかでインバウンド相談会などをやって取り込んでくる方法もあるかと思うが、日本で観光客がやってくるのは東京が圧倒的。東京に来る外国人観光客の方をどのように四国、高知へ周遊させてきて少ない宿泊日数を増やしていくのかという視点もあったらいい。	連携事業No. 13インバウンド観光事業において、海外での観光プロモーションを実施する予定ですが、国内の外国人観光客をどのように周遊させるかといった取組については今後協議して参ります。また、連携市町村で実施する受入体制の整備を含め、外国人観光客が圏域を周遊するよう、取組を進めてまいります。

No.	分類	発言者	提案意見 (項目)	発言内容	対応方針
9	休廃業対策	田村委員	休廃業対策	○本当に零細なところ、特に伝統産業関係が廃業している。その中でも取引がある県外であったり、県内で何かを作っていただけで解消される動きがある。各市町村や金融機関で吸い上げた情報のストックができないか、それを利用してこの廃業という部分を食い止めたい、そこに雇用が生まれて高知県の経済がある程度動くというところは何とかしたいと思っている。情報のストックや見える化、利用できるか。	連携事業No. 7伝統産業推進事業において、伝統産業の強みを活かしたブランド力向上や後継者対策、販路拡大等の支援を行っていくこととしており、金融機関からも積極的なご支援をいただきたいと考えております。また、その際に必要となる情報についてもできる限り提供させていただきたいと考えております。
10	休廃業対策	内川委員	事業承継とM&A	○廃業事業承継やM&Aの話もあったが、四国銀行では小規模の廃業や事業承継に対応するために全店に事業承継・M&Aシニアエキスパートという上級職の増員配置を進めている。これが進めば今本部で行っているような事業承継・M&Aの対応も各営業店にエキスパートがいて細かい対応ができるようになっていくので、市町村の皆様方には四国銀行の営業店にもご相談いただければ解決の糸口が広がっていくのでお願いしたい。	連携事業No. 6地場産品販路拡大推進事業などのほか、日頃の業務の中でご協力をいただくといった内容の連携を含め、様々な場面でご相談させていただきたいと考えております。
11	統計データ分析	亀井委員 受田座長	データの共有	○商工会議所の経営指導員が事業者に対して今後の確な指導を行っていくうえで、データ分析などの取組を是非共有させていただければと思う。(亀井委員) ○データの分析にあたり、どのように作業仮説を立て、どういうふうにすれば圏域全体にメリットがあるかをシミュレーションしていくことが非常に重要になっていくと思う。(受田座長)	連携事業No. 1統計データ活用事業において、各種統計データの分析に取り組んでいくこととしており、分析したデータ等については、まずは市町村間で活用しながら、さらに効果的な施策展開を図るためにも、将来的に関係機関の皆様と共有する方向で検討してまいります。
12	統計データ分析	片岡氏(竹村委員代理)	保健医療分野での統計データ活用	○統計データを活用しようというものが出ているが、保健医療の分野でも横串というか統計データの利用が大事な手法なので各市町村が健康保険や健康パスポートの利用で特定検診の受診率が非常に伸びているので、そうした中で得られた統計データをどう利用していくか、それはこの連携中枢都市圏の中でやるのがいいのか、独自でやるのがいいのか、それは議論していただいたらと思う。	連携事業No.1統計データ活用事業については、各市町村において統計データの活用が十分に図れていないという現状を踏まえ、統計データの活用人材の育成と統計データを活用した分析パターンの蓄積等によるデータバンクの運営という、ソフトとハードの両面で取組を進めたいと考えております。当初は広く参加者を募り、初歩的な内容からスタートし、段階的に応用範囲を拡げていきたいと考えておりますので、ご提案いただいた保健医療分野での統計データの活用につきましても、こうした中で検討していきたいと考えております。
13	インフラ老朽化対策	内川委員	インフラの老朽化対策	○これから社会インフラの老朽化や更新の問題が出てくる。そこで何らかの形で連携をして、例えば民間の力、PPPとかPFIの手法を活用して市町村で勉強会をしたり成功事例を展開させていくなどの方法もあっていいのかと思う。	連携事業No. 85職員交流による連携強化と能力向上において、高知市が実施する研修に連携市町村の職員に参加していただく予定です。PPPやPFIについては、近年高知市の部局研修テーマのひとつとして取り上げておりますので、開催にあたっては積極的に参加を呼びかけてまいります。
14	全般	受田座長	連携中枢だからこそその取組	○連携中枢都市圏だからこそできるスキームを考えていかないと、連携事業として挙げている意味が見えにくい。 ○協定を結んで学生を活動に参画させる場合、どういったスキームがあるのか。そこに連携中枢都市圏というプラットフォームを使う価値があるかとなると極めて有効だろうと思う。	連携中枢都市圏制度の狙いや、圏域を形成して事業を実施することで生まれる相乗効果やメリットを関係者に明確に認識していただき、協力体制が構築できるよう、説明資料についても分かりやすく工夫してまいります。また、制度を最大限に活用して多様な関係機関が参画し、さらに効果を高めていける取組となるよう、今後も協議を重ねてまいります。
15	全般	蝶野委員	目標の達成確率と連携のシナジー	○高知市を中心に33市町村が連携するのは規模からしても分かるが、高知市の内容を他の市町村に水平展開するということで、ある意味効率を上げるような印象を持った。それはもちろん大事であるが、連携をすることでのシナジー効果というか、新しい工夫を何か入れていかないとなかなか国は認めてくれないのではないかな。達成確率と合わせて可能性を出していかないと国に認めてもらえないのではないかな。	
16	全般	片岡氏(竹村委員代理)	連携によるシナジー効果	○それぞれの事業間で連携することで全体としてシナジーが上がるというシナリオがあればさらに分かりやすいと思う。職員の研修も出てくるので、職員の研修をやることで全体でどういう風に地域住民に対して成果をフィードバックできるのかというようなことが連携中枢都市圏ならではの取組として意義づけられるような文言があればさらにいいのではないかなと思う。	